

令和3年8月27日(金)



つつじが丘小学校
学校だより

つつじ

昭島市立つつじが丘小学校長 上田 祥市



みんなで乗り越える

校長 上田 祥市

一時間こえなくなった蝉の音が、暑さとともに戻ってきました。今日から2学期が始まります。

夏休みが始まった7月の終わりから今日までの約1か月間で、新型コロナウイルスの変異株が猛威を振るい、感染者数が5倍以上になりました。児童の感染者も増える中、学校が始まることに不安をもたれる方も多かったと思います。それでも、外出を控え、家で過ごす、いつもとは違う夏休みを過ごした子供たちは、友達や先生に会うことを楽しみにしていた子もたくさんいるでしょう。不安と喜びが入り交じった複雑な気持ちの子もいるでしょう。感染を心配する子もいて当然です。

「子供たちにとって、つつじが丘小学校は、どんなときでも楽しい、学びの共同体である」
学校経営方針に掲げた今年のスローガンは、このような状況でも知恵を出し、協力して楽しく教育活動を創り上げていくという強い意志です。つつじが丘小学校は、現状を直視し、感染防止策を徹底しながら、状況に応じて臨機応変に対策を考え、意義ある教育活動を進めていきます。
感染拡大が止まらない中、感染したり濃厚接触者になったり、家族内で体調を崩し欠席することになったり、不安で休んだり…様々な事態が想像できます。教職員も同様です。そのときは、オンラインでの授業参加や、状況がさらに厳しくなれば、臨時休校でオンライン授業という事態になることも想定しています。どんなときでも、子供たちの学びは止めない努力をしていきます。

一番気を付けなければいけないのは、大人の対応です。休んだ子がいた場合、噂や憶測で発言したり、詮索したり、メールで流したりすると、心を傷つけます。みんなが人権意識を高くもっていると、この難局をともに乗り越えていけると考えます。

「みんなで乗り越える」これは、令和元年の学校便り3月号で書いたタイトルです。コロナ禍が始まり、突然の臨時休校となった3月の学校便り。新型コロナウイルスが、全世界でこれほどまでに感染が拡大し、たくさんの方々が亡くなる事態になるとは想像できなかったあの頃。しかし、先の見えない不安の中でも、つつじが丘小学校は、保護者・地域と協力しながら、みんなで乗り越えようと呼びかけました。

今が、これまでで最大のピンチ。改めて「みんなで乗り越える」を合い言葉に、お互いに連絡をしっかりと取り、心配は相談し合い、できることをともに考え、みんながつながる学校の意義を感じながら「みんなで乗り越えていきたい」と思います。